

煉瓦の発見 点から面への展開へ

一都二彩の街 舞鶴市

東京大学大学院
都市工学専攻教授 西村幸夫

城下町と軍港の二核都市 舞鶴

京都府舞鶴市にはJR東舞鶴駅とJR西舞鶴駅はあるものの、JR舞鶴駅というものは存在しない。通常であれば本末転倒のように見えるが、これは舞鶴市が由緒も歴史も経済背景もまったく異なるふたつの市街地から成り立っているからである。西舞鶴は戦国時代の田辺藩城下町に端を発する歴史都市であり、現在もその名残りが市内各所に感じられる。対する東舞鶴は明治34年に海軍鎮守府が置かれたことで市街地が形成された近代の軍港都市である。

西と東は人口規模も経済規模も似通っている。いきおい対抗意識を持つこととなる。この意識がいい方向に向かうと両者が競い合う、緊張感を持った複眼都市となることができる。現在、舞鶴市は「一都二彩」というキャッチフレーズを掲げて、西の城下町浪漫の再興と東の港町ルネサンスを目指して面的なまちづくりの展開を始動させている。

東舞鶴と赤煉瓦のまちづくり

ことの起りは東舞鶴だった。軍港は戦後は引き揚げの港となり、臨港部は現在も造船所などの工場と海上自衛隊が占



第1回 赤煉瓦シンポジウムでの見学会 1990年(平2)



赤煉瓦サマー・ジャズ・イン舞鶴'91 1991年(平3)

年のうちに繰り広げられた。

空いている赤煉瓦倉庫の再利用も進んでいた。「赤れんが博物館」(1993年)と「市政記念館」(1994年)のオープンに続き、2007年4月には隣接する倉庫が、「まいづる知恵蔵」として再生された。これらの施設はそれぞれ歩いていける範囲にあるので、赤煉瓦建物は散在する「点」から次第に「面」として転用されてきている。そして市役所周辺の赤煉瓦集積地区全体を「赤煉瓦パーク」として整備していく構想も練られている。その一環として、2006年にはかつて敷き詰められていた赤煉瓦と花崗岩の道をボランティアの手によってかぶっていた土が取り除かれ、赤れんがロードとして再生させる動きがスタートし、面を繋ぐ「軸」も生まれて来つつある。最新の赤煉瓦マップには市内になんと131件の赤煉瓦建造物がリストアップされている。これには鉄道の橋梁や門柱や塀、隧道、敷石まで含まれている。宝を見る眼がぐんと広がってきているのだ。

さらに1990年代に東舞鶴駅周辺の連続立体交差事業・土地区画整理事業も進み、いまでは駅舎も駅前広場も、駅前通りも面目を一新している。東舞鶴の都

抛している。つまり、軍港の戦後は必ずしも華々しいものではなかったのである。こうした雰囲気大きく変える「事件」が起きたのは1989年だった。

市役所有志のグループがまちづくりの手がかりを得ようと、横浜市のみならず研究会を訪問し、新港埠頭の赤煉瓦倉庫に案内されたのである。いまでは赤レンガパークとして横浜観光の目玉のひとつとなっているが、当時は保税倉庫としての役割を終えた空き家であり、市はこの大規模な倉庫群を取得する前であった。ここを見て舞鶴のメンバーの感想は、こんな赤煉瓦の建物ならうちにぎょうさんある。そこから東舞鶴の赤煉瓦「再発見」のドラマが始まるのである。たしかに旧海軍の施設には、呉でも佐世保でも赤煉瓦の建物が多い。東舞鶴もそうだった。瞬く間に60棟ほどの赤煉瓦建物が見つかった。

活動は、「まいづる建築探偵団」を組織し、赤煉瓦のマップを作ることから始まった。そして、赤煉瓦シンポジウム(1990年)、赤煉瓦建物の「ライトアップ」、赤煉瓦倶楽部・舞鶴の創設、「赤煉瓦の全国ネットワーク」の立ち上げ(1991年)、赤煉瓦倉庫街を舞台にした「赤煉瓦サマー・ジャズ」の開催(1991年)、「赤れんがフェスタ」の開催(1993年)と様々な活動がわずか数年

心部が赤煉瓦建物というひとつの点の発見から、より広域の面の再生へと大きく動いてきている。

西舞鶴の新しい動き

対する西舞鶴の方も市民が城下町俱樂部を結成し、歴史を紹介する「舞鶴百撰」ブレットの設置、こども歴史塾「明倫齋なるほど塾」の開講など負けてはいない。最近の動きとして注目されるのは寺内の約30m四方の「広うば」の整備である。広うばといっても郊外の空き地ではない。城下町時代のコの字に曲がる道路だったものがその後ショートカットの道が設けられ、四角い空間がなかに駐車場化していたものを、2002年市民ワークショップの成果として工夫したデザインの「広うば」として生まれ変わったのである。

同様に1985年に廃線となった旧国鉄の海舞鶴線(舞鶴港線)の跡地630mの遊歩道としての再生も注目される。周辺住民へのヒアリングやワークショップを通して2006年には魅力的な散歩みち・自転車道として再生された。このように歴史のある古い町西舞鶴にも新しい息吹が芽生えはじめている。



西村 幸夫
にしむら ゆきお

東京大学工学部都市工学卒業 同大学院修了
明治大学助手 アジア工科大学助教授
MIT客員研究員 コロンビア大学客員研究員
などを経て現職
専門は、都市計画、都市保全計画、市民のまちづくり論など
世界文化遺産の評価等を行う世界遺産記念物会
(ICOMOS)前副会長 文化審議会専門委員
東京都景観審議会会長「たかはし町並み建築
デザイン賞」審査委員長など
著書「都市保全計画」町並みまちづくり物語」など多数



名産かまぼこ板を使用
1日バス乗り放題
の手形



雅称 舞鶴 ぶかく 城が地名の起源となる田辺城 復元された城門



戦後 平和のメッセージを発信し続ける 舞鶴引揚記念館



赤煉瓦倉庫群のライトアップ 現海上自衛隊倉庫 北吸地区



舞鶴市政記念館となった旧海軍兵器廠 国登録有形文化財
1902年(明35)竣工



赤れんが博物館 旧海軍兵器廠魚形水雷庫 日本最古の鉄骨構造煉瓦造建築
1903年(明36)竣工



江戸期の藩校 明倫館の正門と白壁塀が残る 明倫小学校



海軍記念館 旧海軍機関学校大講堂 東郷平八郎関連資料など展示



市民ボランティアの手で再生された赤煉瓦と花崗岩の道



周辺市民の参画で遊歩道として蘇生 旧国鉄海舞鶴線跡



旧軍港引込線 赤煉瓦造の北吸トンネル 国登録有形文化財
1904年(明37)竣工



赤れんが博物館の開館を祝って集まった市民たち



赤煉瓦の外観で美しく整えられた地下道入口 舞鶴市役所前



明治・大正期の代表的な赤煉瓦倉庫が立ち並び 北吸 きたすい 地区 遠くは自衛艦